



えいごであそぼう 10

(報告 Nancy 中山) 2025.11.17

今日は、愛先生が取り組んでいる「対話型アート鑑賞法」をしました。

自分が感じたことや思いや気持ちを発表する。人の意見を聞く。答えはありません。

みんなで感じたことをどんどん言い合う時間となりました。鑑賞した絵画は、アメリカの作家エドワード・ヒックスの「平和な王国」



ぶどう組

どう感じたか	「ライオンの顔が猫みたい」「向こうに人がたくさんいる」「裸の人がいる」「飛んでいるような人がいる」「牛の顔が白い」「熊と牛がトウモロコシを食べている」「木に穴が開いている」「崖がある」「大人と子どもがいる」
なぜそう思ったか	人がたくさんいる→交渉している。 木に穴→木が弱っている。その中にリスが住んでいる。
どんな音が聞こえる?	自然のおと→ザワザワ 川の音→ザーザー 動物たちの鳴き声 等々…。

めろん組

どう感じたか	「動物がいる」「人がいる」「ライオンが座っている」「熊と牛がトウモロコシを食べている」
なぜそう思ったか	熊と牛は仲良く食べているか? けんかをしながら食べているか?

めろん組はありのままの様子を伝える意見が多く見られました。一方、ぶどう組は一步踏み込んだ形で「〇〇なんじゃないかな」という自分の憶測や感想を盛り込んだの発表がありました。言語化することの難しさにおいては、やはりこの1年の差は大きいように思います。

この発表に正解はありません。自分自身が感じたことを感じたままに表現できるか、そこがポイントとなります。最初は絵の真ん中に集中しますが、そのうち、隅々まで鑑賞するようになり、意見がどんどん広がります。

本来ならば、実際に美術館に出向いて本物の絵を鑑賞することで感じ方もまた違ってきます。アメリカでは実際授業で美術館に出向きそのようなディスカッションの時間を設けるのだから。日本での取り組みも期待したいところです。(ただ、外国の美術館は大きすぎて一日では回り切れません) 芸術の秋です。ぜひ美術館に足を運んでみませんか?

子ども県展は来年2月24日～3月1日、高知県立美術館で開催です。